

■ ICT機器の導入に関して

先行する障害者施設の現状

障害者支援施設 浩明寮
施設長 川口 和宏

所在地



<開設>

- ・昭和49年4月 浩明寮: 身体障害者療護施設(定員60名)

<実施事業>

- 浩明寮: 障害者支援施設(施設入所支援、生活介護60名)
 - ・短期入所(空床型)

経営理念

1. 職員に対して誠実であること

〈 職員相互は私利私欲を交えず、真心をもって対すること 〉

2. お客さまを厭きさせないこと

〈 お客さまを裏切らず、期待以上のものを提供すること 〉

3. 社会に対して感謝の念を忘れないこと

〈 福祉社会の一員であることを忘れずに、その責任を果たすこと 〉

法人概要



社会福祉法人 そおう福祉会



- ・ 障害者支援施設 浩明寮
- ・ 障害者支援施設 仁愛荘
- ・ 特別養護老人ホーム 芳樹園
- ・ デイサービスセンター 芳樹園
- ・ 筑後市地域包括支援センター 芳樹園ステーション
- ・ ケアプランセンター 芳樹園
- ・ 地域密着型特別養護老人ホーム 明笑園
- ・ 県南障害者サポートセンター
- ・ 住宅型有料老人ホーム エバーガーデン久留米中央町
- ・ デイサービス エバーガーデン久留米中央町
- ・ ヘルパーステーション エバーガーデン久留米中央町
- ・ 定期巡回・随時対応型訪問介護看護
エバーガーデン久留米中央町
- ・ ケアプランセンター エバーガーデン久留米中央町
- ・ 幼老連携型老人ホーム エバーガーデンうきは
- ・ そおう保育園

施設近隣の紹介



・水田天満宮
嘉禄2年創建(鎌倉時代1226年)



溝口竈門神社

年齢・障害者支援区分

○生活介護60名（男性：35名・女性25名）

年齢別

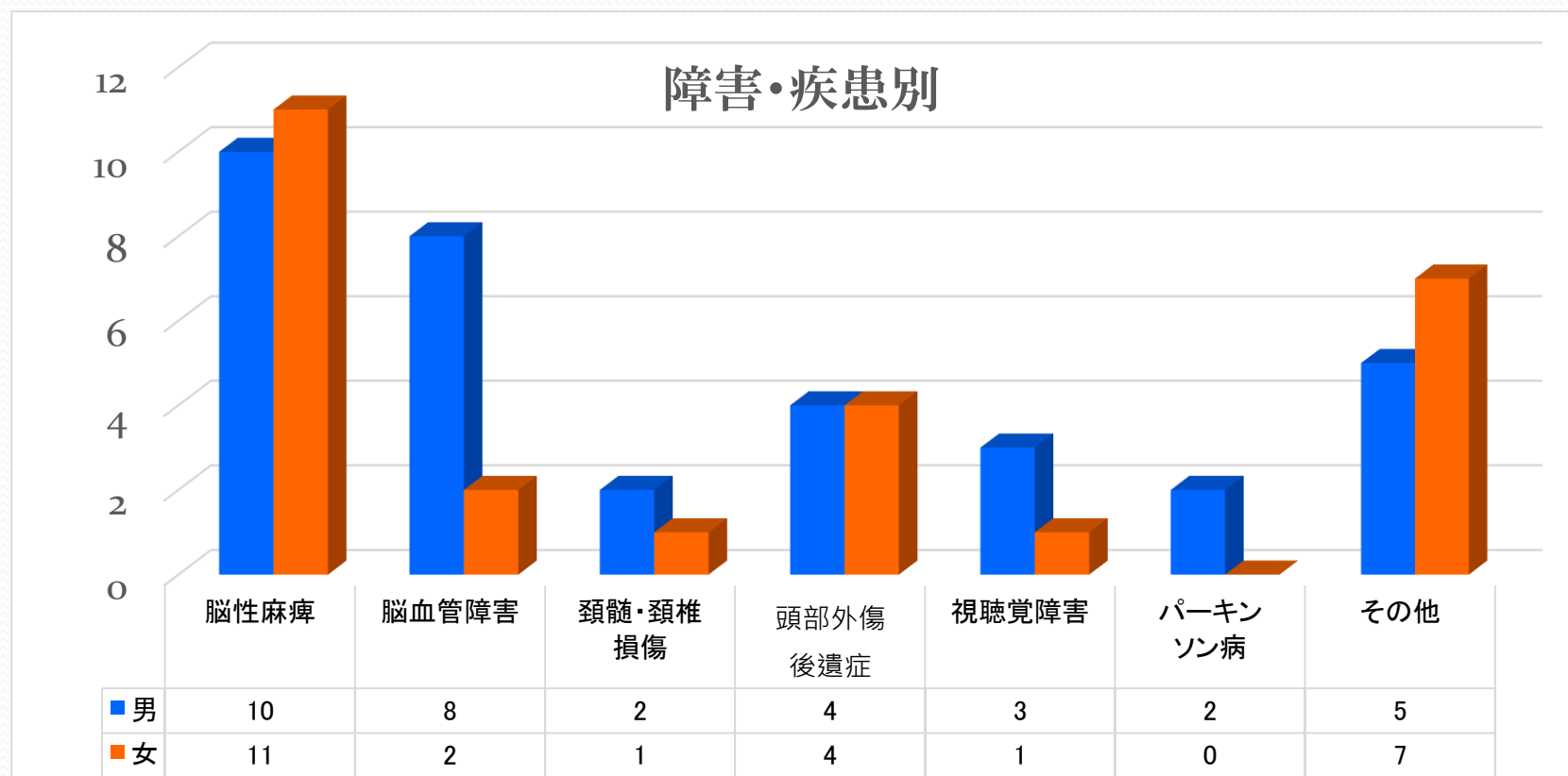
	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	平均年齢
男性		4名	3名	5名	11名	7名	5名		63.0歳
女性				6名	13名	4名	2名		66.0歳

障害者支援区分

	区分6	区分5	区分4	区分3	平均区分
男性	23名	10名	2名		5.60
女性	21名	4名			5.84

※令和3年2月1日現在

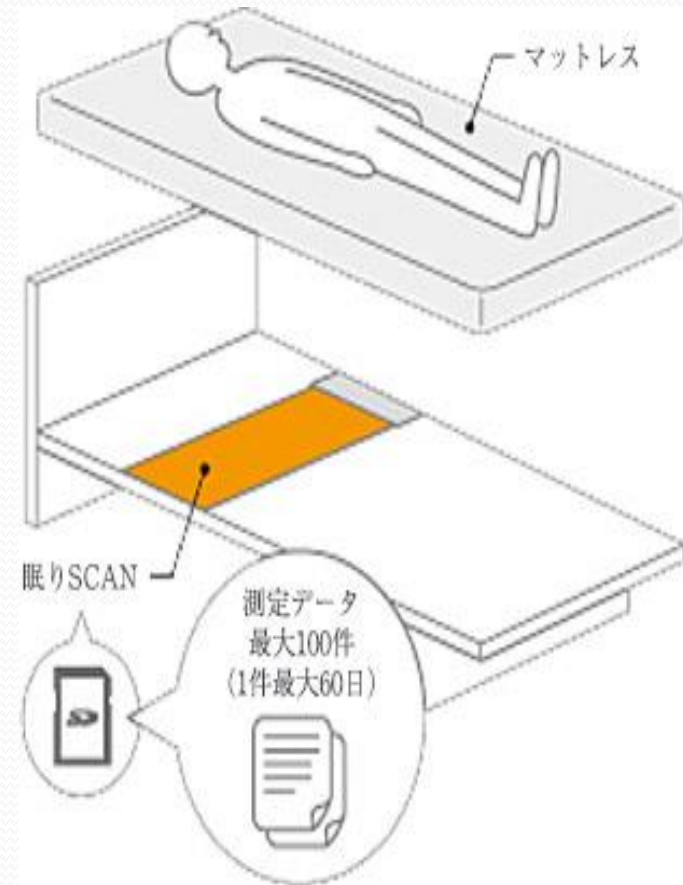
障害・疾患別



※令和3年2月1日現在

眠りスキャンとは

H28.9 全ベッドに眠りスキャン導入



○本体をマットレスや敷きふとんの下に敷いて、起き上がりや離床・在床の把握ができ、人の呼吸や体動により発生する微弱な振動をとらえ、睡眠状態を評価。

導入までの経緯



平成27年 4月1日 地域密着型特別養護老人ホーム 明笑園 事業開始

先進的なケアを目指し

38床全てに **眠りスキャン** を導入

早期から効果を実証、他施設も導入の流れへ

導入時の相違点

明笑園での成功から、浩明寮も一斉設置へ...



明笑園

- ・オープニングスタッフ募集
- ・若い世代の職員が中心



浩明寮

- ・比較的にはベテラン中心

この違いが導入後にどう影響したか？

導入後の問題点

事前の説明、周知徹底...

元々機器が苦手な職員をどうサポートするか？



理想



パソコン、IT機器に強い職員を選抜



メーカー専門スタッフの丁寧な説明



選抜職員による扱い方や操作の周知

現実



職員一人一人の
意識改革

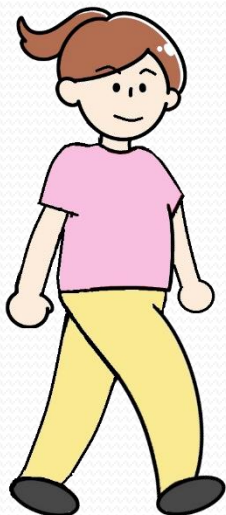
動作の定着



介護ステーションでは逐一確認
移動時は端末を携帯



鳴動後、画面確認



目視で
居室確認



導入直後の職員の声

問題点の改善、意識の統一を目的とした 定例会議 を開始...



トップダウンでの導入のため
効果を疑問視した職員の

不満

機器の不具合?により
仕事が増えたという

苦情

原因説明

~~機器の不具合？~~

→ 誤作動の原因は
設定が**不十分**なことだった

何が必要か？



利用者様の 身体状況
体重
身長
等、設定の**微調整**

根比べと意識の変化



PARAMOUNT BED パラマウントベッド

メーカーの

熱心なサポート

施設の

習熟期間への理解

職員の

経験の積み重ね

長期間に及ぶ

根比べ

これがあった方が安心



アイコンの説明①

離床

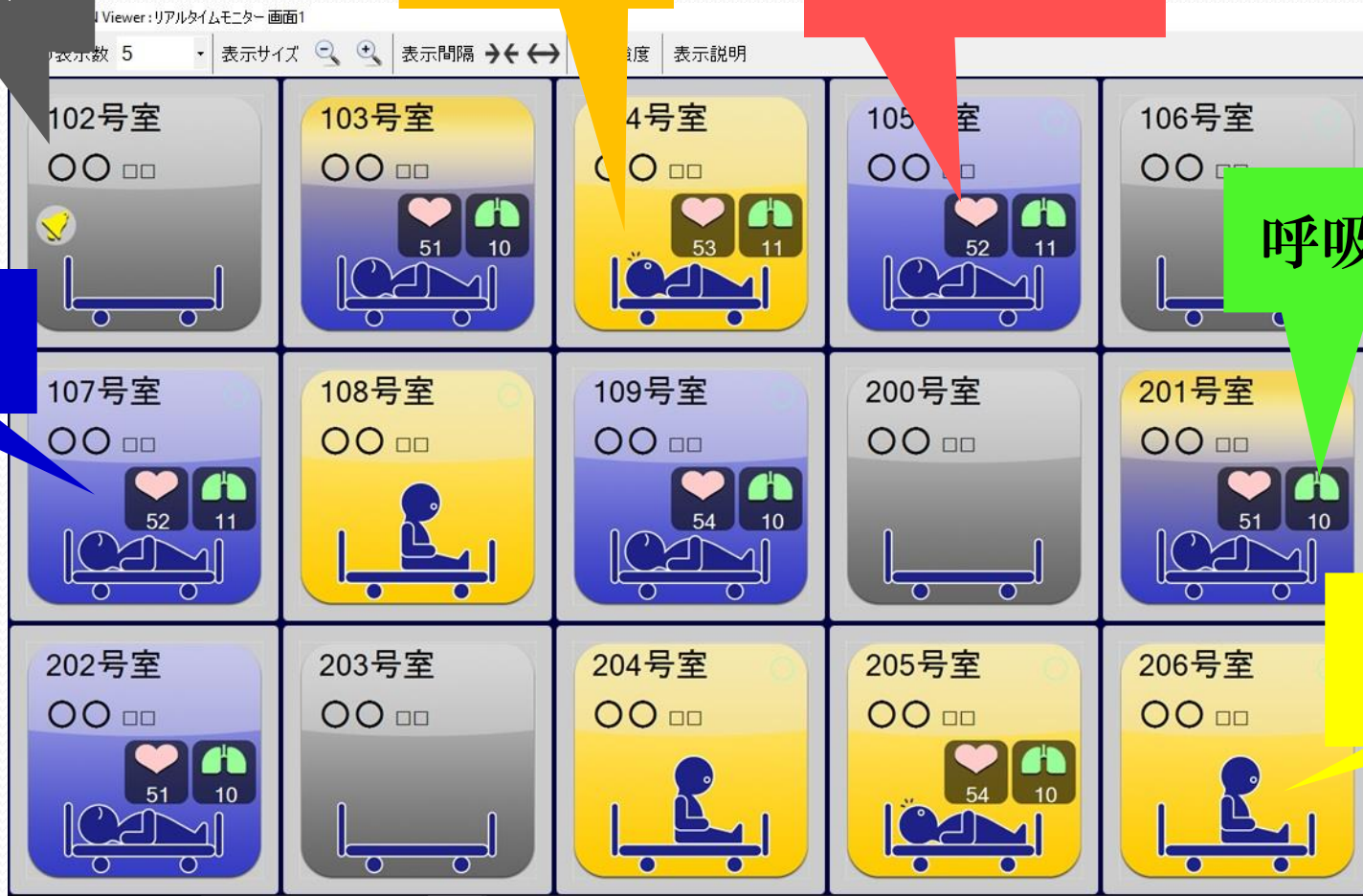
覚醒

心拍数/分

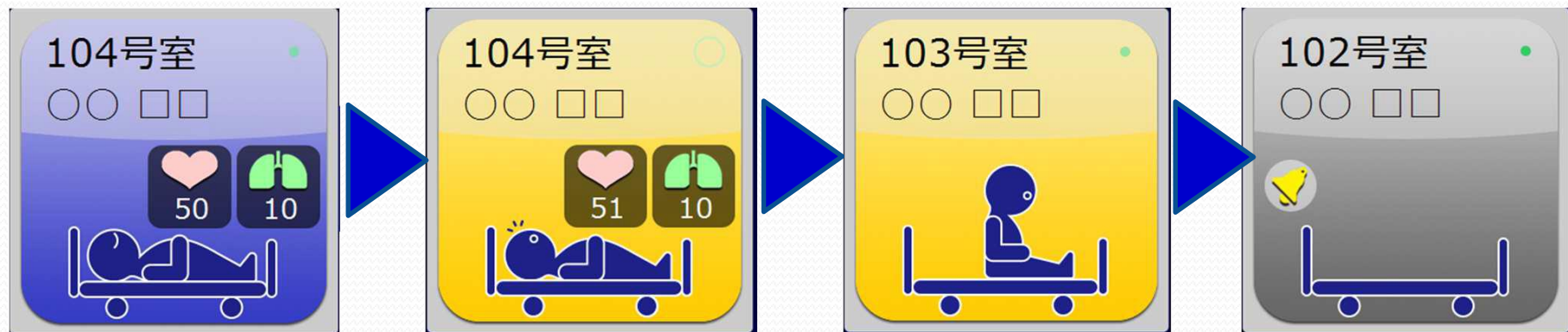
睡眠

呼吸数/分

起き上がり



アイコン説明②



○目的に合わせて、利用者様の状態の変化をPCやiPadで知らせる事ができる

アラームの選択

- ・ 鳴らす人/鳴らさない人を個別に選択

アラームのタイミング

- ・ 【覚醒】【起き上がり】【離床】とアラームの設定の変更

呼吸数・心拍数

- ・ 閾値を設定しアラームを鳴らせる

※閾値(いきち):反応を引き起こすのに必要な最小値または最大値

睡眠日誌



○利用者の睡眠習慣(生活習慣)を確認

- ・夜、よく眠れているか?
- ・離床回数は?
- ・起床する時刻は?
- ・ベッドから離床していないか?
- ・昼夜逆転していないか? など

呼吸日誌



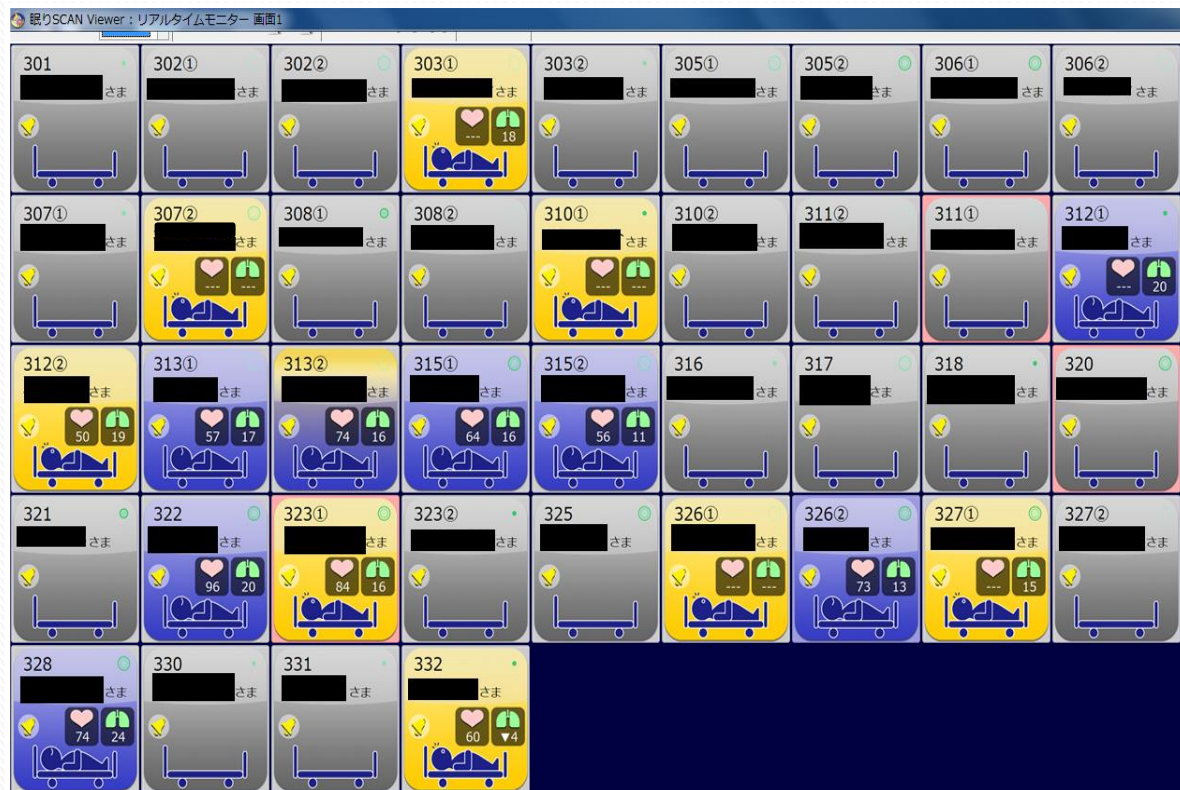
呼吸数
15回前後

呼吸数
30回以上

呼吸数
20回前後

○呼吸数の長期的変動を一覧し、体調変化に早く気づく事ができる

モニター画面

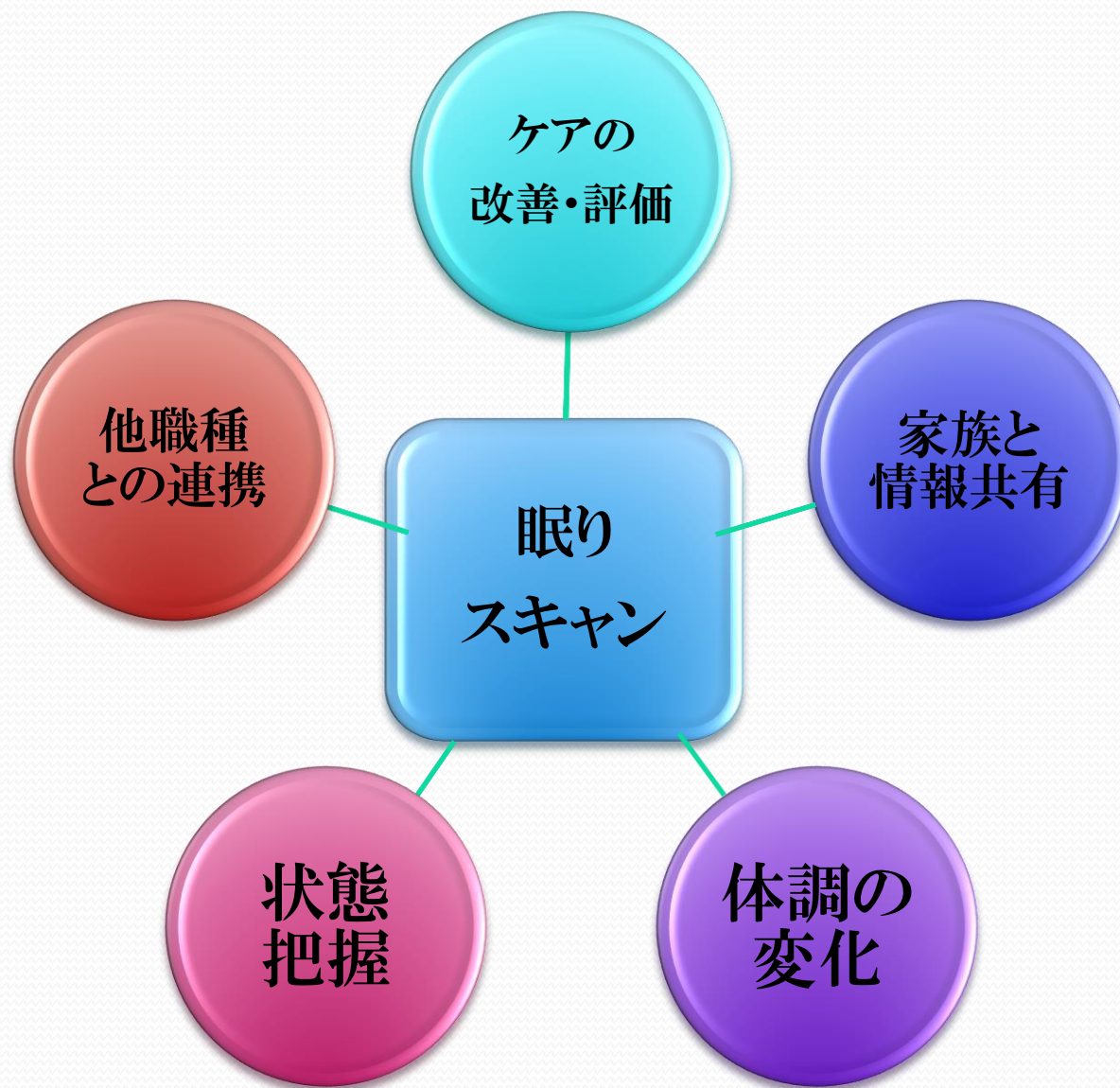


・パソコン画面



・ipod(携帯用)

眠リスクャン導入後



事例①



体調変化の早期発見により
救急搬送を行ったケース

利用者情報①

名前：W氏

性別：♀

年齢：70歳

障害支援区分：6

病歴：脳性麻痺による両下肢機能の全廃
左上肢機能の著しい障害

※平成29年 1月8日 0時30分に救急搬送



救急搬送までの流れ

1月4日 1時30分

- ・眠りスキャンにて呼吸増加が続く
- ・酸素濃度82%～85%。囑託医指示の下酸素2ℓ 流し様子観察

1月7日 21時00分

- ・囑託医指示にてカニューレ装着。酸素量1ℓにする

1月7日 23時50分

- ・眠りスキャンの呼吸低下アラーム音
(1分間に5回以下)が鳴り居室へ訪室
- ・顔面蒼白、徐呼吸、呼びかけにも答え
ず意識なし。(酸素濃度47%～50%)

1月8日 0時30分

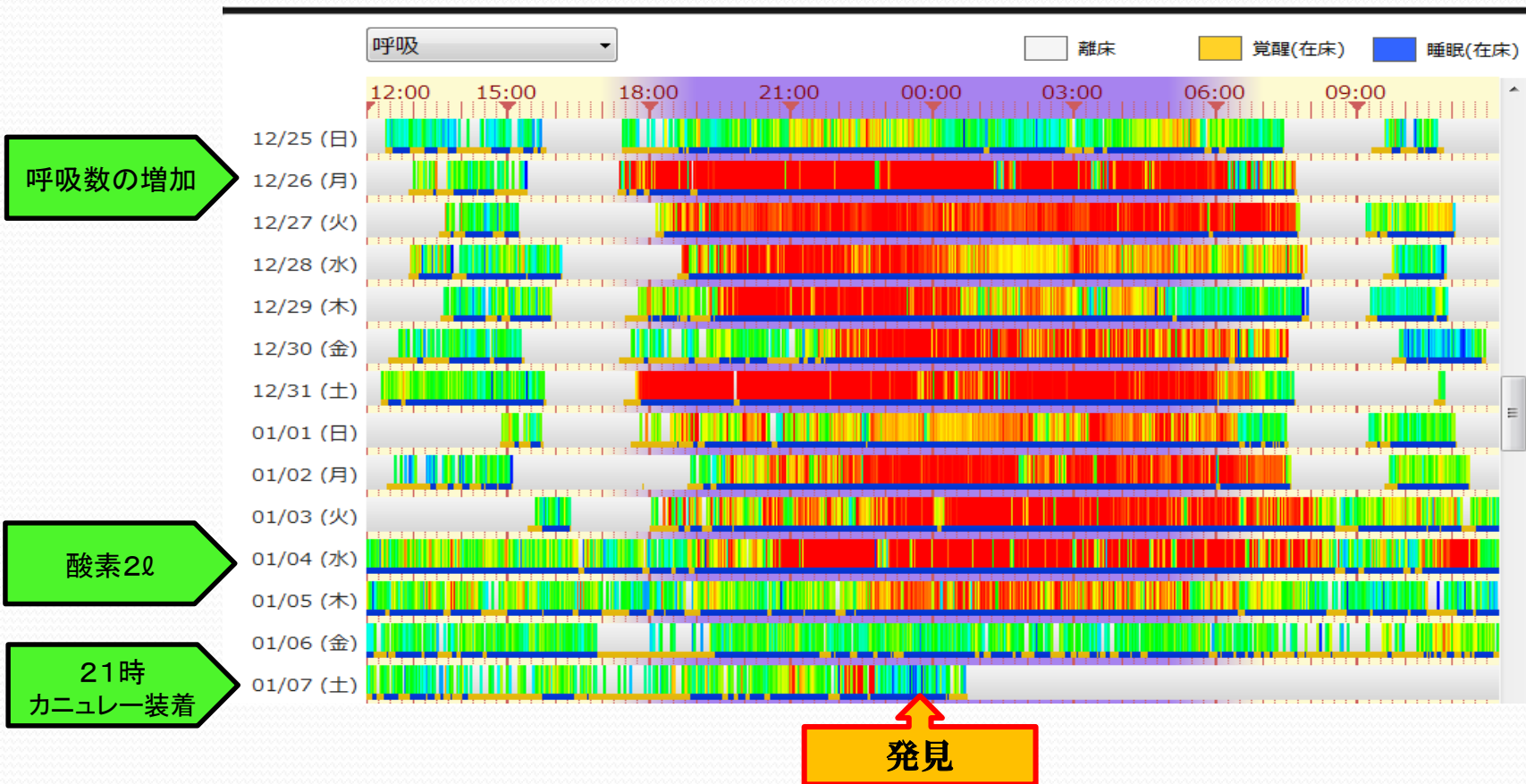
- ・救急搬送

救急搬送される前の10日間の睡眠状況



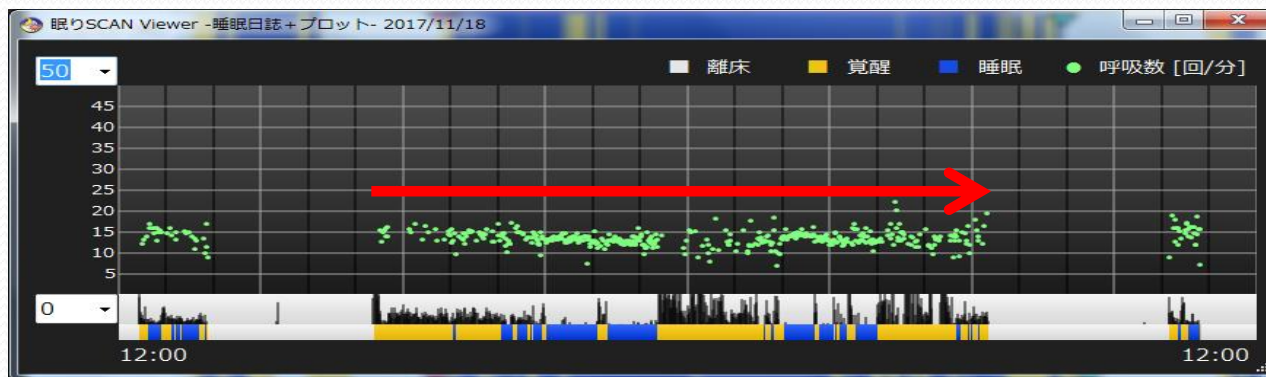
•睡眠状態は比較的安定

呼吸状態を色で表した画像



- 赤い色は1分間に30回以上。緑～青は10回～5回
(健康な成人の平均呼吸数12回～20回)
- 12月26日から1分間の呼吸数が上昇(赤い部分)
- 1月6日、7日は1分間の呼吸数が減少(緑～青)

詳細な呼吸状況



- 比較的安定している人の呼吸状態

W氏



- 1月7日、詳細なグラフで見ると1分間の呼吸数はバラバラでまったく安定していない状態

事例②



睡眠状態の把握により

生活状況が改善出来たケース

利用者情報②

名前:H氏

性別:♂

年齢:44歳

障害支援区分:6

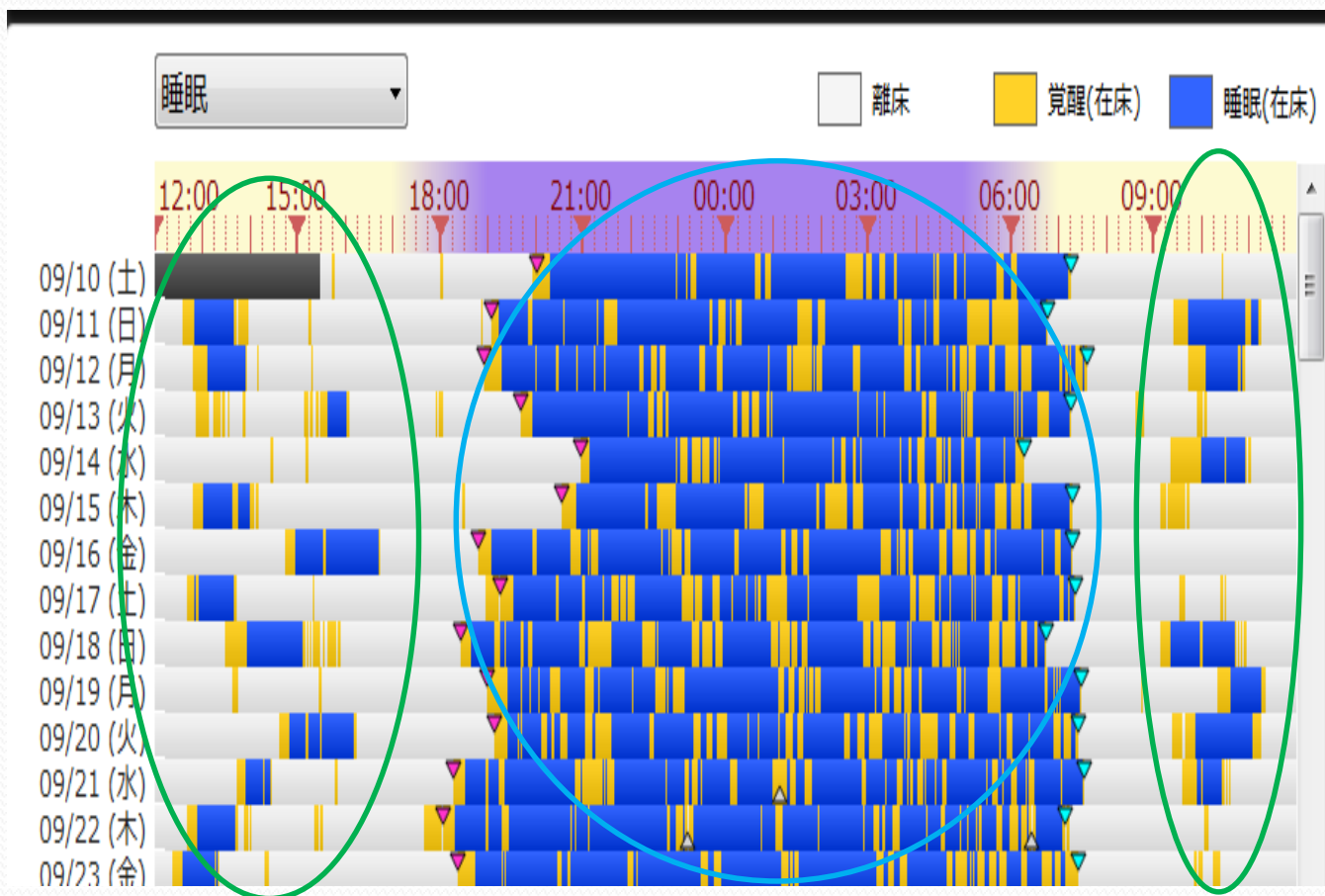
病歴:脳挫傷による右上下肢の機能障害



【眠りスキャン導入前】

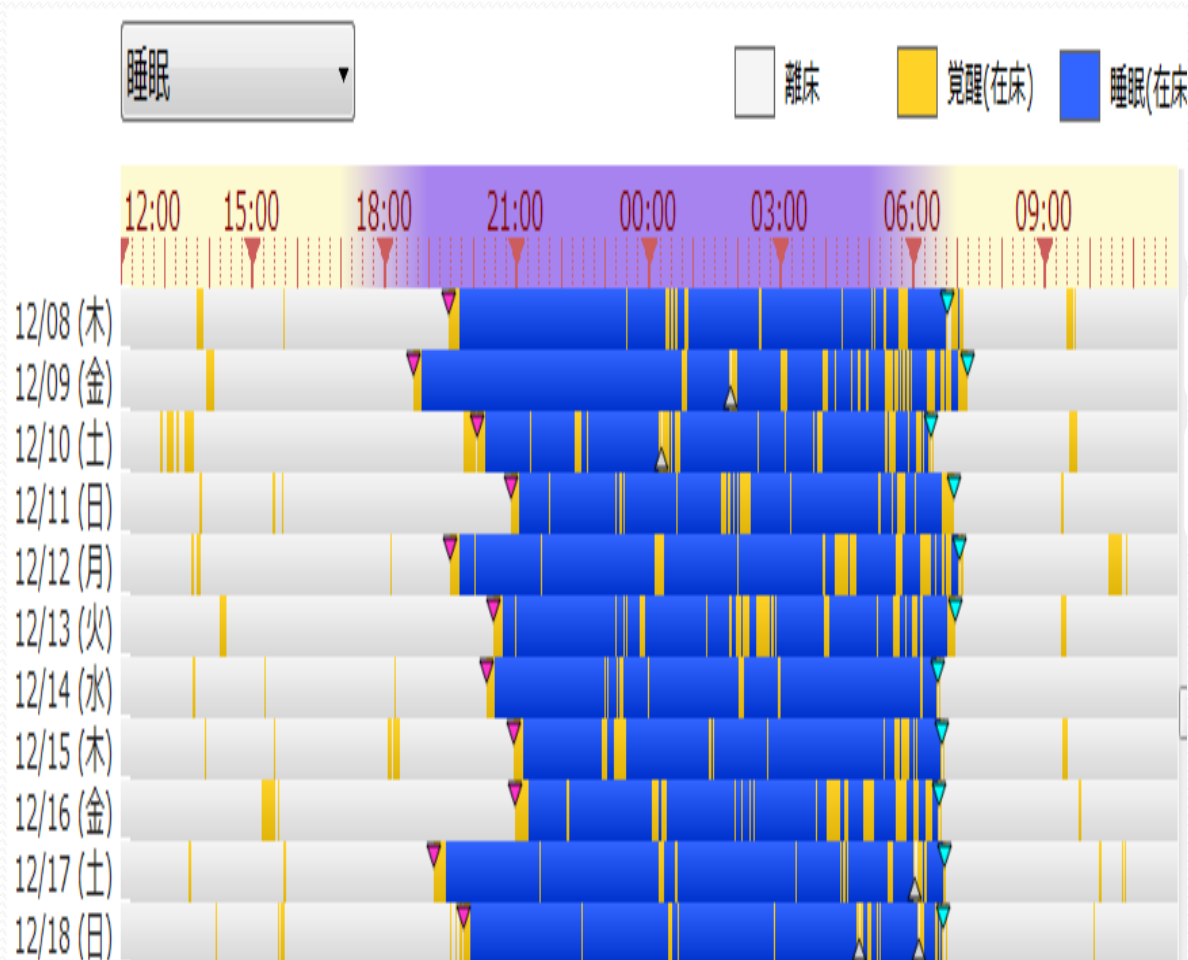
- センサーマットを使用
- 日中ベッド上で過ごす事が多く、夜間眠ることなくコールの回数も非常に多い
- 事故、ヒヤリハットが多発(転倒や滑落事故)
(H27/9/1～H28/9/1までで事故・ヒヤリ件数25件)

睡眠状態改善前



- 夜間頻繁に目が覚めている
- 日中もベッドで過ごしている

睡眠状態改善後



日中休む時間を減らしていただく

就寝時間を20時以降へ

日中活動の充実



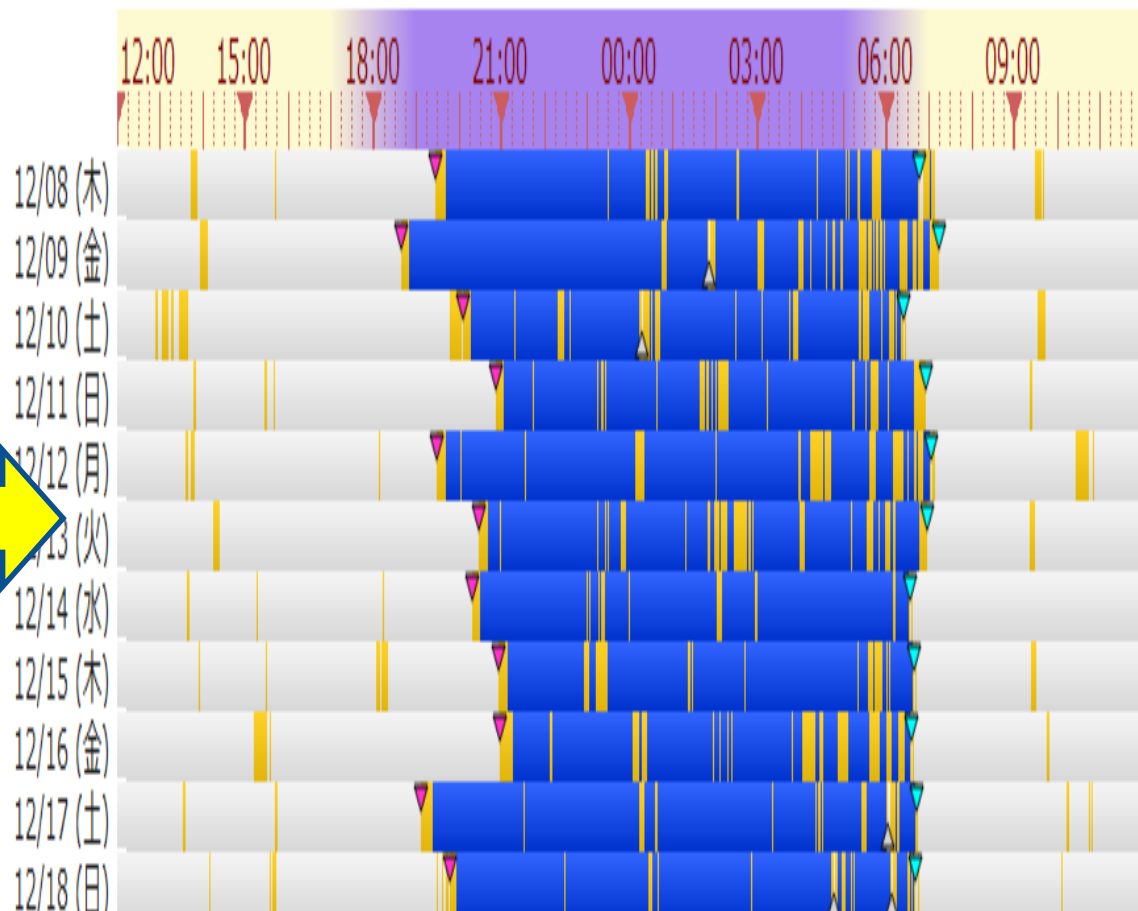
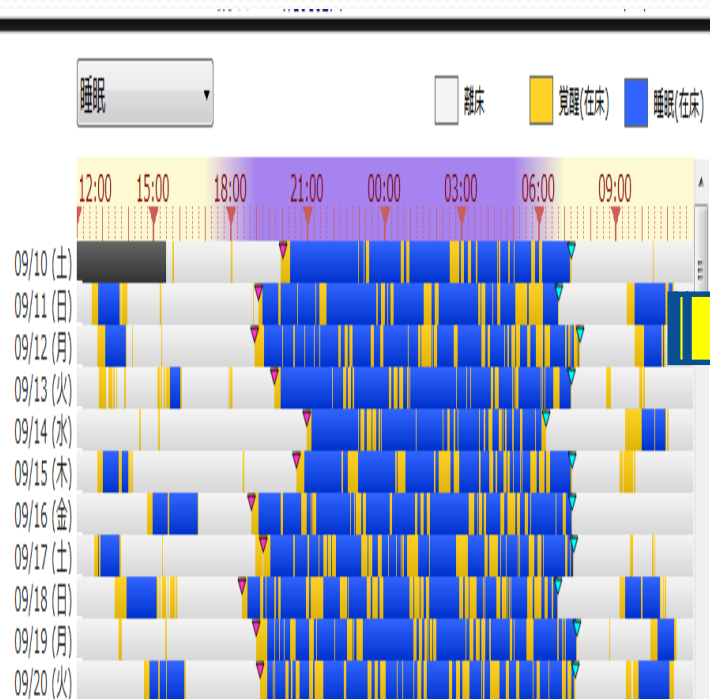
事故・ヒヤリの減少
年間(4回)

・事故・ヒヤリの減少(25件→年間4件へ)

比較

改善後

改善前



- 日中はほとんどベッドで休まれている
- 夜間、黄色い部分の減少

利用者の生活向上 と 職員の負担軽減



導入前：訪室による状態確認

利用者の覚醒に繋がることも...



導入後：モニターでの状態確認

睡眠 を妨げることなく

少ない労力 で 確実な見守り

インカムを導入して

インカム導入の経緯

職員間の情報伝達問題

コール対応の
遅れ

利用者様を
待たせる

職員を呼ぶ際
大声になる

職員の無駄
な動き

利用者様の安
らぎに疑問

インカムとは?!

インターコミュニケーション
(相互通信式構内電話)



移動しているスタッフへ一斉指令を行う
構内電話

- 相互通信のトランシーバーにヘッドセットを付属させたもの
- 正式名称＝ヘッドセット付トランシーバー

インカム装着方法・説明



装着例



イヤホン



マイク



トランシーバー用
ウエストポーチ



眠りスキャン用
iPod

インカムの使用例

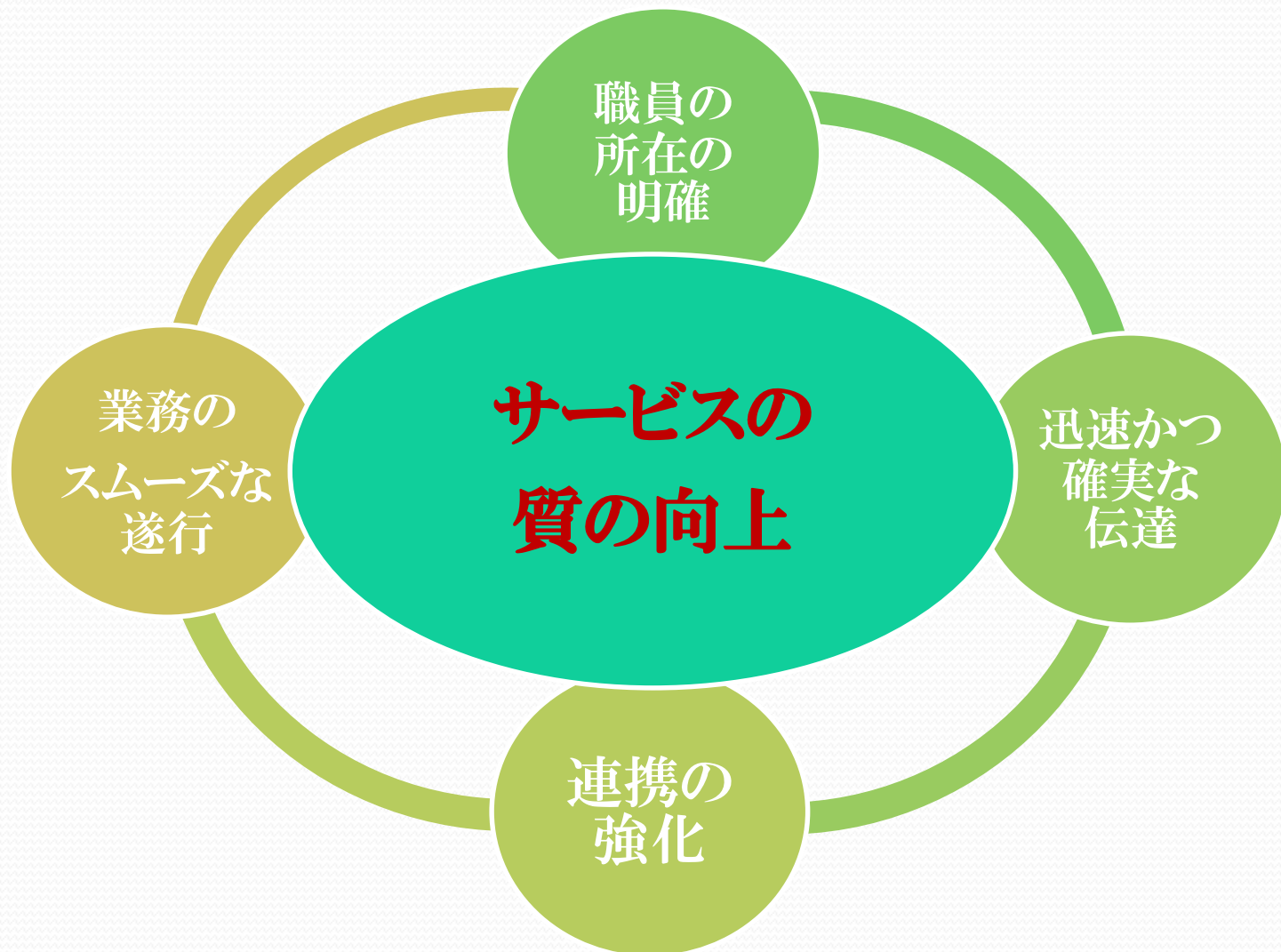
①コール対応指示

②2名介助の応援

③報告・連絡の伝達

④特定の職員を呼ぶ際

インカム導入後の変化



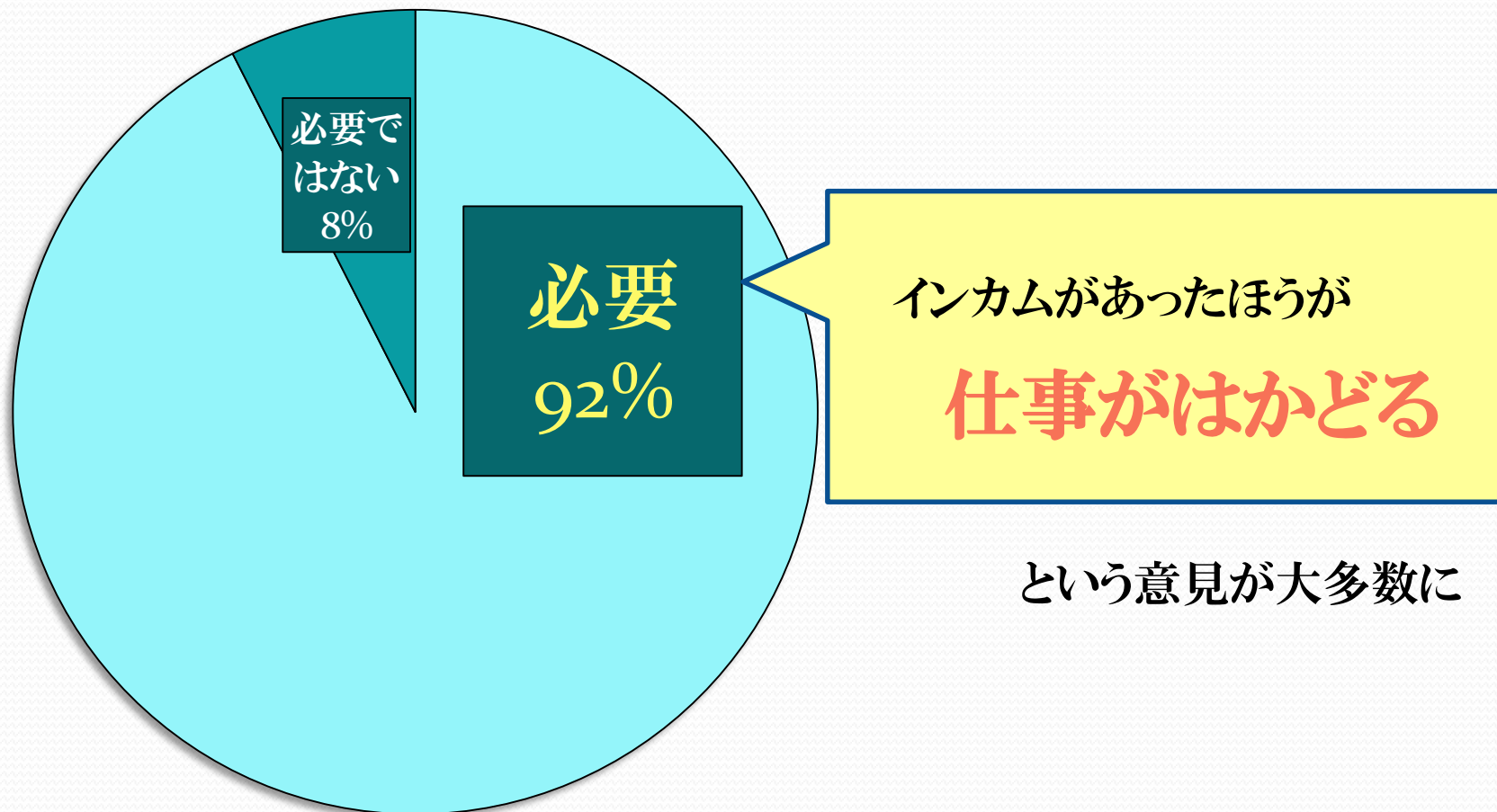
導入後の施設での良い点

- 職員を探す手間が省ける。
- コールが鳴っている時間が短い。
- ヘルプを呼ぶ際の迅速な対応。
- 大声でしゃべる職員が減った。
(騒々しい雰囲気)

導入後の施設での問題点

- 利用者様とのコミュニケーションの妨げ。
- 突然イヤホンから声が聞こえて来る為戸惑う。
- 誰も応答しない場合がある。
- 混線や雑音が入る事がある。
- 最初の数秒が聞こえない。(マイクボタンを押してすぐに話すと最初の数秒が聞こえない)

職員の満足度



さらなるサービスの質の向上

今後の課題と展望

高齢化・重度化

終末期の問題

可能な限り施設での
安楽な看取り介護

慣れ親しんだ
場所

仲間の居る施設
で最期を望む声

ご清聴ありがとうございました

